

当院は、阪神なんば線で、なんばから7分です。

龍灯

第91号

発行所

大阪市史跡
龍溪禪師墓所

靈龜山

九島院

〒550-0022 大阪市西区本町3丁目4番18号

TEL 06(6583)2725 FAX 06(6583)0908

発行者

第廿六代住職

奥田穂積(明勝)

九島院25代啓知住職退任式・26代住職に就任した穂積和尚の晋山式並びに開山龍溪性潛大和尚示寂350年遠忌法要が、11月10日に黄檗宗の古式にのつとり営まれました。当日は秋晴れの凜とした空気のなか、黄檗宗管長近藤博道猊下をはじめ大本山萬福寺の重役、法類区内寺院方、遠方より駆けつけた新命の雲水修業仲間など34名の和尚さま方に会し盛大かつ厳肅に執り行われました。

午前9時半、安下処(行列の出発所)の町内の黄檗寺院善源寺を先導和尚の拆(拍子木)の合図で出発。来賓檀家総代ら総勢約200名が一堂に集まりました。

(大意) 佛縁に従い九島院に入山し、先づえた新命住職の行列が、町内を練り歩きドドドトーン・ガーンと鳴ります。鐘鼓交鳴の中、山門に到着。途に期待している九島院が大きいに響くの鐘鼓交鳴の中、山門に到着。金禪寺辻岡秀幸和尚の祝問。晋山の境地を問われ、「仏さまの教えを行

第廿六代 啓知和尚 退任式

併修 開山龍溪性潛禪師三五〇年遠忌法要

（ぜんが為）と応じて法語で境涯を披瀝し、次いで本堂に入堂しました。白樅師(晋山式を通して、新住職の法力を証明して頂く)を勤める管長猊下が入堂し、尊宿の和尚方や総代・来賓・寺族の一同が待ち受けるなか、前住職が入堂し、退任式が執り行なわれました。

晋山香語

退任香語

回首三旬歲月忙
從緣門入續遺芳
結構茲完宿願果
偏期九島得隆昌

（大意）ここに機運が熟し黄檗宗の旗を継ぐこととなつた。龍溪禪師の教えを高く掲げ広く衆生に門を開く。晋山式をあげる今日住職となつてどんな指針で生きていくのか。仏道を成し師匠を通して仏さまに与えられた大恩に酬いていかん

比熟時緣繼璧襯
龍燈高揭廣開門
上堂今日亦何貴
成佛道今酬大恩



（大意）佛縁に従い九島院に入山し、先づえた新命住職の行列が、町内を練り歩きドドドトーン・ガーンと鳴ります。鐘鼓交鳴の中、山門に到着。途に期待している九島院が大きいに響くの鐘鼓交鳴の中、山門に到着。金禪寺辻岡秀幸和尚の祝問。晋山の境地を問われ、「仏さまの教えを行

めました。を唱え住職の証である袈裟を本尊前に収めました。

（→次ページへ続く）

問答にさきがけ三辨香という儀式を勤め今上天皇皇后両陛下の万歳を祝延し、国家の隆昌、国民の幸福を祈り、九島院歴代和尚に報恩感謝の意を唱えました。

晋山慶事法筵開 眞俗無心春意回 萬福來添功德聚 禪燈九島百花魁

問答は、3人の禅客が裂帛の気迫で次々に挑み、新命住職は堂々と臨濟正宗の真髓を説きました。さらに『提綱』(黄檗宗の宗旨の綱要、仏法の大意を説法する)『自叙』(自らを謙虚に述べる)『謝語』(今日の晋山・退任式に際し前住職をはじめ白槌師や加担下さった全ての和尚方、お檀家の皆様に謝意を述べる)をそれぞれ法語で唱えました。それらを見届けた白槌師の管長猊下が「諦觀法王法王如是」と讃嘆し、穂積和尚が九島院住職としての力量ありと証明されました。引き続いで、開山大宗正統禪師龍溪大和尚三百五十年遠忌法要に移ります。住職となつて最初の大法要での導師での大法要での導師で

管長猊下の祝語

問答にさきがけ三辨香といふよいよ禅問答の始まりです。さと臨済正宗の真髓を説きました。『提綱』(黄檗宗の宗旨の綱要、仏法の大意を説法する)『自叙』(自らを謙虚に述べる)『謝語』(今日の晋山・退任式に際し前住職をはじめ白槌師や加担下さった全ての和尚方、お檀家の皆様に謝意を述べる)をそれぞれ法語で唱えました。それらを見届けた白槌師の管長猊下が「諦觀法王法王如是」と讃嘆し、穂積和尚が九島院住職としての力量ありと証明されました。引き続いで、開山大宗正統禪師龍溪大和尚三百五十年遠忌法要に移ります。住職となつて最初の大法要での導師での大法要での導師で

問答にさきがけ三辨香といふよいよ禅問答の始まりです。さと臨済正宗の真髓を説きました。『提綱』(黄檗宗の宗旨の綱要、仏法の大意を説法する)『自叙』(自らを謙虚に述べる)『謝語』(今日の晋山・退任式に際し前住職をはじめ白槌師や加担下さった全ての和尚方、お檀家の皆様に謝意を述べる)をそれぞれ法語で唱えました。それらを見届けた白槌師の管長猊下が「諦觀法王法王如是」と讃嘆し、穂積和尚が九島院住職としての力量ありと証明されました。引き続いで、開山大宗正統禪師龍溪大和尚三百五十年遠忌法要に移ります。住職となつて最初の大法要での導師での大法要での導師で

開山忌香語

三百五拾歲月移 法燈續焰報恩時 心香一瓣獻龍祖 粉骨碎身以貫之

(大意)

三百五十年歳月が移り変わった。龍溪性潛禪師の説く仏法が途切れることなく伝わり三百五十年報恩遠忌を迎える。心を込めて抹香一片を龍祖に献じ、龍祖の仏法を途切れさせることなく、粉骨碎身力



か
かつ
盛
大
に
!

祝



だるまさん、集めてます。ご不要なだるまさん（置物など）お寺へ譲ってください。

退任のご挨拶

この度、九島院住職の任を退くことに相成りました。顧みますれば、平成元年六月十五日に先代弘忠和尚の後受け以来三十年以上になります。その間、形ばかりの住職を受けておりましたが、何とか勤めてまいりました。一番の思いではあります。現在の龍燈会館の建築、本堂の修復、本堂屋根瓦の葺き替えなど平成の復興大事業を成し遂げた事です。これは、檀信徒をはじめ、有縁の方々の並々ならぬお力添えにより果たさせて頂いたことであります。幸い、後継住職は大本山萬福寺禅堂にて一年間の修行を経て、僧侶として法務に励んでくれておりますので、安心して譲ることが出来ます。私も一僧侶として、九島院、そして檀信徒の皆様の行く末を見守させていただく所存であります。どうも長い間有難うございました。

第廿五代住職 奥田啓知 合掌

この度、九島院第廿六代住職に就任させて頂きました。創建以来、歴代住職並びに檀信徒の皆様が護持にご尽力頂いたお蔭でこの九条・本田の地に仏法を伝える嘗みが続けられてきました。住職となりその嘗みを引き継ぐことは大変な喜びであり、その責任を大きく感じています。今の不安の多い世の中で、九島院を通して様々な方々が温かいご縁を結んで頂けるようなお寺を目指して、精進して参りたいと思います。誰でも参加できます！

第廿六代住職 奥田 穂積 合掌

九条から阪神三宮駅・近鉄奈良駅まで一直線！

行事報告

6/1 はじめての坐禅（9回目）

参加者11名

8/19 水灯会（お施餓鬼法要）

参加者50名

8/22 地蔵盆子ども会（10回目）

参加者100名

8/23 大龜地蔵尊 地蔵盆回向

参加者9名

9/28 写経会（21回目） 参加者5名

参加者21名

行事予定

5/17 3/28 3/23 春の写経会（22回目）

9/28 写経会（21回目） 参加者5名

10/13 お寺deヨガ（19回目） 参加者21名

昨年11月より開始した新庫裡建築工事。無事に本年9月10日に完成致しました。工事期間中、大変ご不便をおかけいたしました。皆様のご理解に深く感謝いたします。今後は、お墓参りの皆様のお手洗い、本堂ご利用時の炊事場としてご利用いただきます。



新庫裡建築報告

令和2年 年忌早見表

年忌早見表

年忌	寂年	年忌	寂年
1周忌	平成31年 令和元年	17回忌	平成16年
3回忌	平成30年	25回忌	平成8年
7回忌	平成26年	33回忌	昭和63年
13回忌	平成20年	50回忌	昭和46年

工事期間中のご協力
有難うございました

墓地管理費のご納付をお願いします。墓参りの折、郵便振込みでも結構です。

不思議なご縁

「ちょっと聞いたあ？」などのギャグで親しまれた漫才コンビ「W（ダブル）ヤング」の平川幸男さんが、11月11日逝去されました。一世を風靡し、相方の中田軍治さんの突然の自殺がなければ、「やすし・ぎよし」を越え上方漫才界で、燐然と輝く存在となっていたことでしょう。

退任記念本『積慶抄』で「ほんのう川柳」に「不思議なご縁」で記しましたが、小生の川柳界の切っ掛けとなったのは、旧梅田富国生命ビル前の居酒屋『赤とんぼ』で平川師匠夫婦との出会いでした。

師匠がブツブツと川柳を練っておられ、うかがうと「桂三枝師匠が主催されている相合傘という川柳の句会での、課題句」だそうで、上方文化の方々が参加されているとのことでした。その後、不思議なご縁で相合傘に入会できる事となり、平川師匠には随分可愛がって頂きました。

「実父は同志社大学卒業で同窓生の家が九条駅前にあり、大阪大空襲の時にたまたま同家に来ており、慌てて堀江の自宅にかけ戻り、母親を背負って逃げたそうで、息子がその家の目と鼻の先の九島院の住職になるなど夢にも思わなかつた」と退任式当日の挨拶に述べました。不思議なご縁です。

また、桂三枝師匠（現桂文枝）も拙院のお檀家で関西大学の落語大学というサークルを創設した頃、弊師とも昵懃で彼岸法要で落語を、当時の芸名『浪漫亭ちくく』で披露されたと、古いお檀家さんに聞いたことがあります。不思議なご縁です。

家内との出会いも、檀家経代の尾崎氏のご長男が茨木市で保護司をされており、BBSという保護司の補佐をする会の立ち上げに参加した折り、ともに桃山学院高等学校卒業が判り、昵懃となり紹介されたのです。龍谷大学落語研究会に入っていたのも幸いしたのか、弊師のお目にかない結婚できました。

「仏縁」人事の及ばない仏さまの御手のなかで私たちは生かされています。「縁に従い入門し遺芳をつぐ・・」と退任の詩偈で述べたように、教師を天職と生きていた小生が、不思議なご縁で九島院の住職となり、今ここに30年の住職の責務を全う出来たのもを不思議なご縁だと思います。



お知らせ

◎のぼり奉納の募集◎

1旗 金 2千円

『南無觀世音菩薩のぼり』を入れ替えます。
1年間境内に掲げます。昨年同様、お施主さんを募集いたします。為書きと施主名を墨書します。

ご希望の方は、寺務所までお声かけ下さい。

▼退任・晋山式と開山350年遠忌法要は、大勢の方々のお力添えのもと盛大かつ厳粛に勤められました。小生の時（平成5年）と違い、規模をおとしたものでしたが、禅宗の儀式作法を厳格に踏襲し凜としたものでした。

▼今年の流行語大賞に『ONE TEAM（ワントーム）』がノミネートされています。ラグビーワールドカップ日本代表選手が掲げていたテーマで、代表選手31名、日本を含めた7ヶ国の出身者から選ばれています。異なる萬福寺の専門道場での修行仲間の和尚さんたちでした。

▼「同じ釜の飯を食い」修行を貫徹する目標のもと、日夜修行に明け暮れた仲間がそれこそワンチームで応援してくれました。

▼連日の準備やリハーサル何よりも驚いたのは、式典終了後に全員で後片付けをしてく

編集後記

文化や背景を持つ選手たちがお互いをリストし、ベスト8という目標を共有し日本の歴史や文化を学び合宿を通じて家族のような一つのチームとなりワンチームで成し遂げた快挙でした。

▼今回、九州・兵庫・京都から随喜加担して下さったのは、新命穂積和尚と同参で大本山

▼11月10日に退任式と晋山式を無事に執り行いました。

▼どちらも一生に一度の経験。本当に記憶に残る一年となりました。

▼晋山式には今夏に本山で得度を受けた長男忠佑も法衣を着て参加しました。

▼まだまだ未熟者ですが、あたたかい目で見守ってください。どうぞ、宜しくお願いします。

（住職記す）